



第 1 章

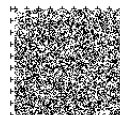
戦略策定にあたって

POINT

0 1 | 戦略策定の背景

- 前期プランにおける総括を通じて
- 観光全般における現状
- 久留米市における課題の考察

0 2 | 戦略の位置づけ



01 | 戦略策定の背景

■前期プランにおける総括を通じて



久留米市観光・MICE戦略プラン
[2015—2021]

リーディングプロジェクト



PROJECT 01

久留米を楽しむ！
くるくるチケット
プロジェクト



PROJECT 02

久留米を周遊(まわる)！
ぶらぶら耳納北麓
プロジェクト



PROJECT 03

久留米を輪(まわる)！
すいすい自転車
プロジェクト



PROJECT 04

久留米に集まる！
くるくるMICE
プロジェクト

基本理念の実現は道半ば

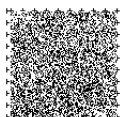
久留米市は、2015年に久留米らしい観光・MICEの振興を図り、交流人口の拡大と賑わいの創出による、地域経済の活力向上に努めるため、「久留米市観光・MICE戦略プラン」を策定しました。計画では、将来に向かって市全体で目指す姿を定めた基本理念、取り組む視点を定めた基本方針、実現のための具体的取組として基本施策とリーディングプロジェクトを示し、計画期間中の様々な取組の指針としてきました。

この基本理念の実現は、個別の事業の積み上げや目標数値の達成により、時間をかけて涵養されていくものであるという考えの下、基本施策などに基つき様々な具体的事業に取り組んできており、現在もその途にあると認識しています。

変化するトレンドへの対応

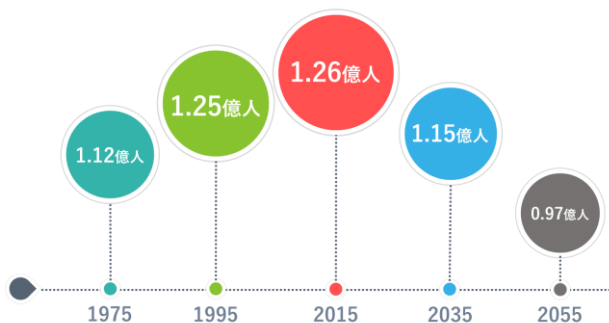
団体旅行から個人旅行へのシフト、国際情勢の変化や訪日外国人旅行者の増加など、急激に変化するトレンドへの対応が必要となってきました。また、今般観光業を含め社会に大きな影響を及ぼしている新型コロナウイルスを始めとする感染症の流行など、不測の事態に対応していく視点も戦略には不可欠です。

このような背景から、短期的に達成すべき目標や実施事業を「アクションプログラム」として設定し、今後も変化が予想される観光業界のトレンドに適切に対応しながらも、中長期的な基本理念の実現のための基本方針は踏襲し、体系的に具体的な事業に取り組む必要があります。



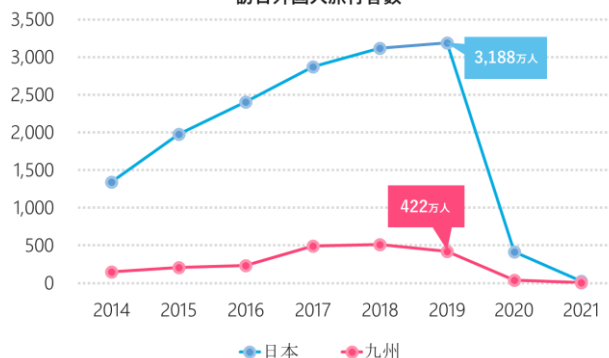
■観光全般における現状

日本の人口推移と予測



※参考：総務省統計局「日本の統計 2021」

訪日外国人旅行者数



※参考：JNTO「年別 訪日外客数、出国日本人数の推移」
九州運輸局「九州への外国人入国者数の推移」

全国の観光動向

我が国は、少子高齢化による減少局面に入っており、今後、本格的な人口減少社会が到来することとなります。それに伴い、国内観光市場の長期的な縮小が懸念されています。また近年は、若年層の旅行離れ、個人旅行やFITの主流化といった個人の価値観の多様化が観光スタイルに変化を与えています。そのため旅行商品を提供する側が、これらに対応する魅力的な観光商品や細やかなサービスを検討し、提供することが求められています。

訪日外国人旅行者数については、2018年にはじめて3,000万人を突破しました。主に東アジア、東南アジア諸国の所得水準の向上を背景に、我が国を訪れる外国人数は増加傾向にありました。

そのような中、政府は外国人旅行者の誘客活動「訪日旅行促進事業」を推進しており、訪日外国人旅行者数を2030年に年間6,000万人とすることを目標に掲げています。

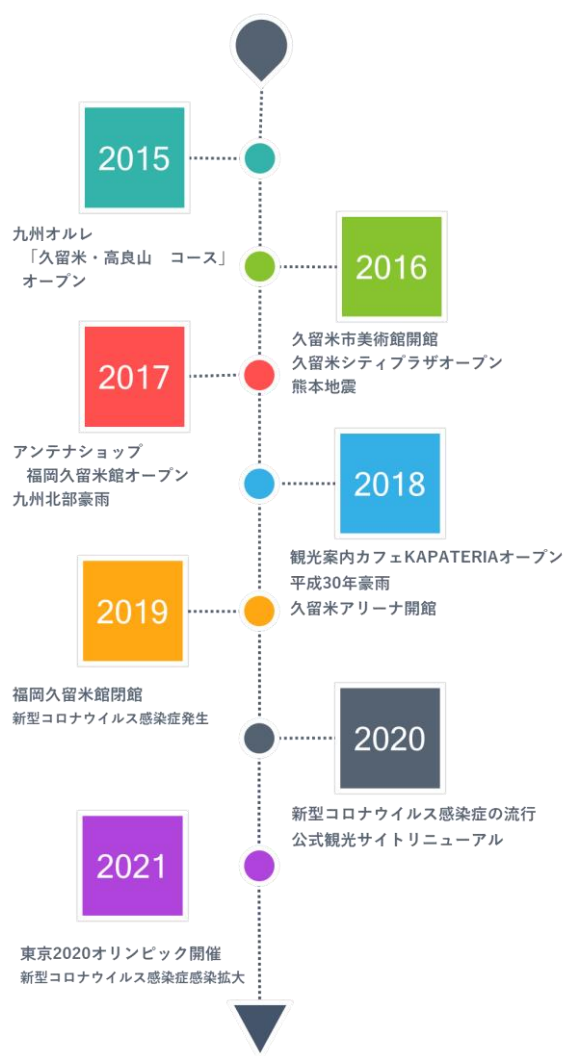
アフターコロナの訪日外国人旅行消費額の回復・増大のために、富裕層旅行者の誘客や着地型観光商品の充実、SDGsへの対応などと共に、防疫や公衆衛生環境の整備・強化に取り組むことが必要となっています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



UNWTO「観光と持続可能な開発目標」
観光には、直接的または間接的にすべての目標に貢献する潜在力があり、特に目標8, 12, 14において観光が明記されています。





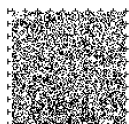
久留米市の観光動向

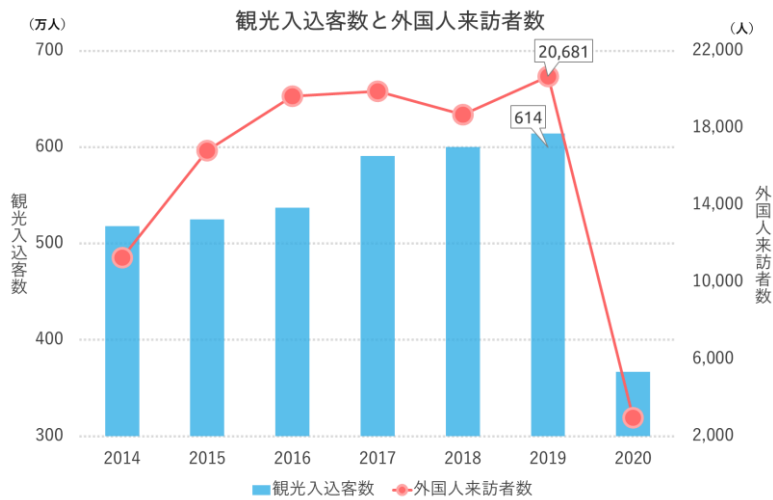
前期プランは、以下の9項目の数値目標を掲げ、観光振興を推進してきました。当初の計画最終年である2019年〔令和元年〕の達成状況は、以下のとおりです。

観光入込客数は、大雨や台風などによる自然災害の影響があり、目標値の700万人は達成出来なかったものの、堅調に推移していました。特に外国人の来訪者は、2015年〔平成27年〕の16,812人と比較して約23%の増加となっています。MICEに関連した目標値の3項目は、いずれも達成出来ませんでした。延べ参加者や宿泊者は増加傾向にあり、久留米シティプラザや久留米アリーナの供用開始と開催支援などの効果が出てきたものと考えられます。

また2020年には、観光資源の魅力向上、旅行者の受入環境の充実その他の観光の振興を図る施策に要する費用に充てるための目的税として、福岡県に宿泊税が導入されました。

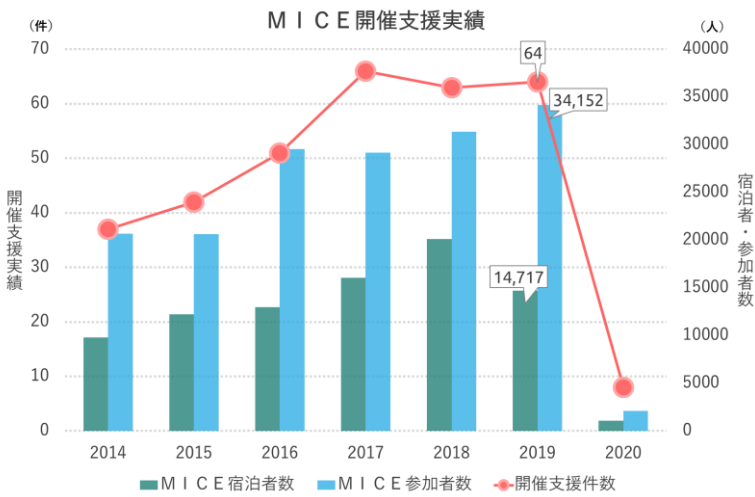
項目	基準値 2013年	目標値 2019年	実績値 2019年	達成率
1. 観光入込客数	515万人	700万人	614万人	87.7%
2. 来訪者満足度 (満足した割合)	63.5% ※基準年は2015年	69.9%	60.6%	86.6%
3. 外国人来訪者数	16,812人 ※基準年は2015年	21,856人	20,681人	94.6%
4. MICE開催支援件数	56件	100件	64件	64.0%
5. MICE宿泊者数	12,123人	22,000人	14,717人	66.8%
6. MICE参加者数	35,330人	63,000人	34,152人	54.2%
7. 久留米まち旅博覧会 ①新規PG②満足度	①20.0% ②90.0%	①20.0% ②90.0%	①22.5% ②99.8%	①112.5% ②110.9%
8. 観光サイトアクセス数	142万件	200万件	134万件	67.0%
9. Wi-Fi環境整備	33%	100%	82.8%	82.8%





✓ GOOD PROGRESS

観光入込客数は、コロナ禍前までは堅調に推移。
外国人の来訪者は、2013年の7,450人と比較して2019年は180%程度増加。



✓ SOME GROWTH

MICEに関連した目標値3項目は、目標達成は出来なかったものの、延べ参加者や宿泊者は増加傾向であった。

前戦略計画期間中に取り組んだ主な施策

Measure 2
地域観光情報発信

Measure 4
四季のイベント
開催支援

Measure 1
九州オルレ
久留米・高良山コース

Measure 3
女性職員プロジェクト

Measure 5
くるめ観光案内
マップ



■久留米市における課題の考察



01

経済効果に結び付く誘客の推進

人口の減少などを要因として、地域経済の拡大が厳しい状況にある中、本市の観光振興は、地域経済の維持・活性化に繋げることを重視しています。

旅行者の更なる呼び込みとともに、滞在時間

延長を促す仕組みづくり、あるいは地域の「稼ぐ力」を引き出すことによって、観光消費に結びつけ、経済効果を増加させることが今後の大きな課題となっています。



02

戦略的なインバウンド施策展開

アフターコロナの国際観光市場回復期を見据え、これまで人気観光地に集中していた外国人旅行者を、いかに本市へ誘客するかが課題と言えます。

移り変わる国際情勢への対応として多角化していくと共に、外国人旅行者の国・地域毎

のニーズを的確に捉え、琴線に触れる観光商品づくりや効果的に届く情報発信、快適に観光ができる環境づくりを戦略的に行っていく必要があります。また、国際的な取り組みである SDGs への対応も求められています。



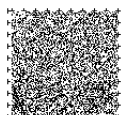
03

MICE 誘致競争力の強化

MICE の開催は、地域全体に高い経済波及効果をもたらすことから、全国各地で激しい都市間誘致競争が行われています。

この競争を勝ち抜き、本市でのMICE開催件数、規模を維持・拡大していくためには、久留米シティプラザや久留米アリーナなどの

MICE 関連施設の機能を充実させ、最大限に活用していくこととともに、他都市と差別化されたアフターコンベンションやユニークベニューの提供などにどのように取り組むかが課題と言えます。





04

質の高い受入環境の充実

国内外からの来訪者に再訪を促すためには、快適に滞在できる基盤整備を進めていかなければなりません。

引き続き観光案内機能を強化していくとともに、集客交流施設を効果的に維持・活用・

整備していく必要があります。

また、観光地域として、来訪者を主体的に温かく迎える気持ちを共有していくことが期待されています。



05

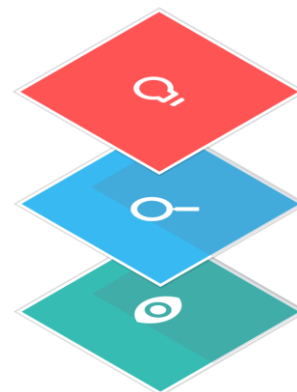
デジタル時代の情報収集・発信

旅行者の多くが SNS などによる旅行情報を旅先決定の参考に使っています。その過程の初期段階である「認知」と「検索」の両面において情報発信を行うことが、誘客に効果的と考えられます。

ニーズに合った観光情報を集積していくことに加え、本市の魅力や個性を旅行者に届ける情報発信手法を検討することが必要です。

また、効果測定可能なデータに基づくマーケティング分析によって、より実効性の高い施策に繋げていくことも課題となっています。

意思決定



検索

認知



06

安全・安心な旅行の提供

新型コロナウイルス感染症の発生により、移動をはじめ、食事・娯楽・行事などにおいて様々な社会的変化が生まれており、当市も観光需要回復に向けて、旅行者のニーズに対応した「安全・安心」に対する取組を進めていかなければなりません。

感染症対策において衛生対策を徹底することは当然として、災害発生時や急病時などに、国内外の旅行者に対して、どのように不安を取り除き、安全・安心な旅のかたちを提供していくかが課題となります。



02 | 戦略の位置づけ



本戦略は、本市の最上位計画である「久留米市新総合計画第4次基本計画〔2020～2025〕」において、目指す都市の姿のひとつに掲げる「活力あふれる中核都市久留米」を担う計画として位置づけられています。市が策定する観光分野との関りが深い他の個別計画や、広域連携

計画「連携中枢都市圏ビジョン」と連動しながら、九州及び福岡県の指針などとも連携し、持続的な観光・MICEの振興を図るための指針とします。

